

2015年3月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答の要約

質問者 1

Q1 2015年3月期の業績予想に対して、営業利益以下が未達成になった理由について確認したい。

A1 不採算案件の発生が業績予想の未達成に影響したのは事実だが、本質的には売上高および限界利益をもっと伸ばす必要があったと認識している。

不採算案件が発生したシステムインテグレーション事業（以降、SI事業）は、これまで集中的に技術者リソースを投入してきた領域である。SI事業の成長ドライバーであるマイクロソフトソリューションは、対前年比で売上高125%と伸長している。急激な事業成長に対して、プロジェクト管理が追い付かずに不採算案件が発生したことを反省し、PMP（Project Management Professional）の取得プログラムを全社的に推進することで、プロジェクト管理体制の強化を図る方針である。

Q2 シマンテックストアの収益が落ち込んできている点について、どのように考えているか教えてほしい。

A2 2014年10月10日、シマンテック社がセキュリティに特化した会社と、情報管理に特化した会社への分社化すると発表した。これを受けてSymantec社の副社長とディスカッションを行った際にセキュリティ領域に関して当社として良い方向に進むのではないかという感触を得ることができた。Symantec社とは10年以上にわたってパートナー関係を続けているため、引き続き連携をとりながら事業を継続していく。

Q3 公共ビジネスの検収時期が第4四半期に集中していると説明があった。人員配置を含めてマネジメントが難しい印象があるが、どのように対応しているのか確認したい。

A3 当社では、昨年度に初めて公共案件を手掛けた際にマネジメントのノウハウを積むことができた。その時の経験から、公共ビジネスにおいては当社単独ではなく、地場のIT企業とパートナー関係を築いて対応していく方針で進めている。

質問者 2

Q1 ウェブ解析士協会の受験者数の増加が、データアナリティクス事業に対してどのように貢献するのか確認したい。

A1 ウェブ解析士協会は一般社団法人で、株式会社環（以降、環）の代表取締役社長の江尻が代表理事を務めている。また、協会の事務局は環が行っている。ウェブ解析士の受験者数の累計は、協会発足後の6年間で約4千名だったが、当社が環を買収した2013年6月から本日までの間に、9千名を超えるまでに増加した。

データ解析ツールの高度化・成熟化が進む一方で、データの分析・活用能力をもつ人材不足問題が顕在化している。当社では、ウェブ解析士協会の運営を通じて、業界全体の解析技術の向上を積極的に推進している。

今後は、資格を取得したウェブ解析士との連携やシナジー効果についても検討を進めていく。

Q2 インターネットを中心とした多種多様なビジネスや業務において、セキュリティ対策の重要性が高まると考えている。セキュリティの分野における貴社の取り組みを確認したい。

A2 当社のセキュリティ事業は、一次代理店としてセキュリティ製品を販売し、構築するビジネスモデルが中心であったが、従来の事業構造の転換を進めている。

セキュリティ関連の自社サービスを提供するビジネスモデルを目指しており、子会社のサイバートラスト株式会社（以降、CTJ社）の端末認証サービスをはじめとした自社サービスの拡充に注力している。

Q3 御社が推進しているサービスプロバイダーへの事業構造の転換において、要素技術やコンテンツに不足があるのか教えてほしい。

A3 事業構造の転換は着実に進んでいるが、要素技術やコンテンツは十分ではないと考えている。

M&Aの選定条件は、自社で要素技術やコンテンツを保有していることであり、シナジー効果が期待できるかどうかを検討し、優先順位を付けている。

最近のM&Aの事例としては、2014年4月にデバイス認証の技術要素を保有しているCTJ社を買収した。同年7月には「MIRACLE LINUX」を初めとしたオープンソースソフトウェアの領域を得意とし、OSのカーネルレベルで設定や調整ができる技術力を持っているミラクル・リナックス社を買収した。